

戦略体系図について

1 戦略的政策評価について

- (1) 本市は、第3次行政改革の目標である「成果重視への転換」を実現するため、平成26年度から戦略的政策評価を実施してきました。
- 戦略的政策評価は、目的を明確にして、それを達成するための手段を事前にしっかりと検討して政策を立案する手法です。
- (2) 戦略的政策評価で使用している政策の理論体系を表現した図を「戦略体系図」と呼称しています。一般的には、「ロジック・モデル」と呼ばれます。

2 戦略体系図の考え方と用語について

- (1) まず政策の目指す目的、めざす姿を決めます。これが上位目的です。
- (2) 上位目的を実現するために必要な成果を「戦略目的」として設定します。上位目的に対して複数の「戦略目的」が考えられますが、上位目的に最も寄与すると考えられるものを「戦略目的」とします。
- (3) 「戦略目的」に対して、その手段が実現されれば、「戦略目的」が達成できるだろうという仮説を立てながら、手段を考案します。
- (ア) 「戦略目的」に直接に寄与する手段を2桁の数字で表現し、「2桁手段」と呼称しています。
- (イ) 「2桁手段」に対して寄与する手段を4桁の数字で表現し、「4桁手段」と呼称しています。
- (ウ) 「4桁手段」を実現する活動を「4桁手段」の下位に記載します。
- (4) このように「4桁手段」が達成されれば「2桁手段」が達成し、「2桁手段」が達成されれば成果である「戦略目的」が達成される、という論理になり、それぞれ原因と結果の関係になります。
- (5) 戦略体系図は、地域社会や集団を扱う内容であるため、社会の状態や変化を表す「されている」「なっている」等の表現を用いています。
- (6) 状況の変化に合わせて整合性、合理性を常にチェックし戦略体系図の改善を行います。主なチェック項目は下記のとおりです。
- (ア) 手段が目的に対して貢献しているのか、その手段で成果を上げることができるのか。
- (イ) 目的達成のために有効な手段の組み合わせが選択されているか。
- (ウ) 重要かつ有効な手段が欠けていないか。
- (7) 指標
- 「戦略目的」、「2桁手段」及び「4桁手段」に指標を設定します。指標は、数値に換算できる場合は換算します（金額、人数、アンケート結果など）。数値への換算が困難な質的な成果は、改革内容をそのまま文書等で表現します。
- これらの指標を参考にしながら戦略体系図を改善します。

3 具体例（個人を事例に）

